

# 活発な農業委員会活動を 目指して

## 宇陀市農業委員会

### 1. 宇陀市の農業の概要

宇陀市は、平成18年に大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村が合併した市で、奈良県東部に位置し、総面積24,672haで東は曾爾村、西は桜井市、北は奈良市・山添村、南は吉野町・東吉野村に接している。

また、奈良盆地と宇陀郡及び吉野地方、さらには伊勢方面を結ぶ交通の要衝にある。気候は、大宇陀で年平均気温13.3℃で、奈良盆地と比較すると3～4℃低くなっている。冬には奈良盆地から西峠を越えて宇陀盆地にはいると一段と寒くなり、積雪量にも差があると言われている。年間降水量は平均1,400mm前後である。

標高は概ね270～900m（近鉄榛原駅付近で307m）で山林が多く農地が川沿いの平坦地から山間部へと樹枝状に広がっている。

流域は、宇陀川本流域、宇陀川の支流である芳野川流域、内牧側流域、紀ノ川の支流である津風呂戸川流域に区分される。支流を含め宇陀川流域は沖積層からなり、古くから人が住み始めた開墾地であった。宇陀川の下流付近は蛇行が著しく、過去にはしばしば堤防が決壊し、水害をもたらしてきた。

平成11年度に宇陀川上流に総貯水量58万m<sup>3</sup>の宮奥ダムが完成し、これによって農業用水の安定供給、農業の生産性を高めるとともに、生活用水の確保を図っている。農家戸数は2,405戸で総世帯の21%を占める、農家人口は9,709人である、65歳以上の高齢人口比は30%である、経営耕地面積は1,081haで、田は76%、畑21%、樹園地3%である。

耕作放棄地は445haで、旧大宇陀町、旧室生村が耕作放棄地率25%以上と特に高い。ほ場整備率は田26%、畑58%と低い、農業産出額は33.3億円で、主な内訳は畜産10.5億円、米9.6億円、野菜8.7億円、花き2.6億円となっている、平成17年現在、本市の作付面積等が県内シェア1位の畜産物は10種類ある。

### 2. 農業委員会の取り組み

#### ①農業委員会会議

宇陀市農業委員会は、毎月10日に農業委員会議を開催し、議案の審議にあたっては全議案について担当委員・輪番制による4名の現地確認委員・会長・事務局2名による現地を確認した後、全委員による委員会を開催し審議しています。

また、担当農業委員による活動の報告、委員会後の研修会を機会あるごとに行っています。

当委員会は農政部・農地部・生産部を設置し、農政部は農業委員の選挙区及び定数の見直し、農地法改正に伴う下限面積の見直しとこれにかかる規制について、売買価格の設定についての役割、農地部は遊休農地対策について、農地パトロールについての役割、生産部は市内の農業者との意見交換会等の役割をこれまで果たしてまいりました。

## ②遊休農地の実態調査

農地パトロールを、農業委員会会議の前の現地確認時に行い、遊休農地や無断転用、不法投棄等の調査を行っています。

また、本年度は、7月と2月に農地部を中心とした全委員による利用状況調査を2回実施しました。



## ③農業者との意見交換会

本年度は、昨年度の認定農業者との意見交換会に続き、認定農業者、農業生産法人、新規就農者、中三間協定代表者、農地・水・環境代表者に参加を呼びかけ、生産部主催により実施しました。

来賓には、近畿農政局奈良県農政事務所、奈良県農業会議、奈良県東部農林事務所、宇陀共済組合、奈良県農協の臨席のもと、活発な意見が交わされ有意義な意見交換会となりました。

